

一般質問



子供の幸せ(ウェルビーイング)を実現し、貧困の世代間連鎖を断ち切るための施策

問 子供の貧困対策は喫緊の課題となっており、乳幼児期から社会的自立に至るまで切れ目なく、総合的に支援を推

進していくための「子どもの貧困対策計画」は既に全国の約半数の市町村で策定されているが、残念ながら、本市では策定されていない。速やかな策定が必要ではないか。

答 今後、「子ども・子育て支援事業計画」を見直す際に、子供の貧困対策について、内容を更に充実させていきたい。

再発言 家庭の経済格差に起因する子供たちの教育格差を解消していくための学習支援や、様々な困難を抱える子供たちが社会を生き抜く力を養

うための家でも学校でもない平日毎日通える居場所づくり、養育費の履行確保のための支援、子供を増え続ける虐待から守る見守り体制の強化等の課題の解決に向け、真に子供の幸せの観点から、目標・指標を設定した「子どもの貧困対策計画」を速やかに策定するとともに、PDCAサイクル（計画、実行、評価、改善）による子供の貧困対策を推進し、行政の透明性の確保と市民への説明責任を果たされるよう強く要望する。



観光を生かしたまちづくり

問 魅力的なまちづくりやシティプロモーションの展開に欠かすことができない観光基本計画の推進に当たって、市

長の見解を聞きたい。

答 新たな観光基本計画を策定し実施することにより、域内消費拡大による地域経済の活性化と本市のイメージのさらなる向上を図っていきたい。

“自分事”として捉える事ができる主権者教育を

問 教育の最大の目的は子供たちの幸福のためにあると考える。主権者教育も自分の身の回りの事を自分事として捉える事ができるように丁寧に取り組むべきである。

本市における主権者教育について聞きたい。

答 持続可能な社会の実現に向けて、主体的に社会参画しようとする力を育むために、地域や関係機関等と連携し、子供たちが他者や社会と関わる喜びや手応えを味わうことができる取組を進めていけるよう指導していきたい。

再発言 今年度は、市議会として、議会報告会を高校生や大学生を対象に行った。若者が政治に発言できる機会をつくることも大切と考える。



7月豪雨からの復旧・復興と減災のまちづくり

問 どの被災地でも共通するのは復興への道しるべと、どこをゴールとするかで、これからは復興に向けたまちづく

りのビジョンが必要。

本市では豪雨災害後すぐに「令和2年7月豪雨災害検証委員会」を立ち上げ、令和3年2月には提言書が出された。

同年4月には提言を踏まえた今後の防災・減災対策をまとめ、令和3年5月1日号の広報おおむたで市民に広く伝えているものの、それ以降、市からは取組の進捗状況が伝えられていない。

災害から1年半が経過する中、提言を踏まえたその後の防災・減災対策がどのように

なっているかを市民に分かりやすく伝えていくことは、市民の安心感にもつながり、対外的にも見える化できる。市の考えを聞きたい。

答 提言を踏まえた防災・減災対策のその後の進捗状況は、既に対応が完了した事業や、現在対応中の事業、あるいは継続した取組が必要な事業などがあり、それらを早急に取りまとめ、市民へ分かりやすい形でお知らせしていきたい。

再発言 早急に広報し、遅れている項目は早期に実施を。